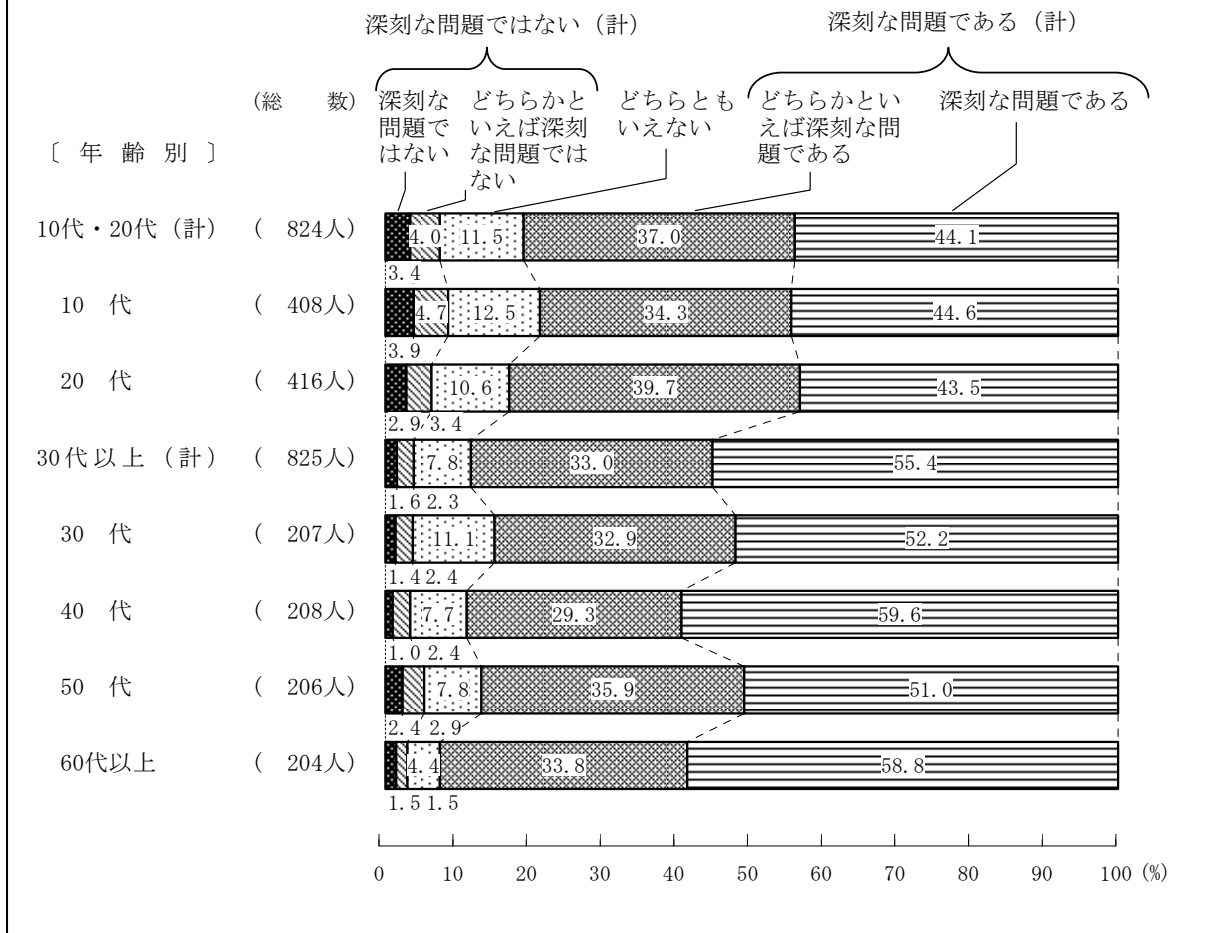


12. 青少年の薬物問題

(1) 青少年の薬物問題に対する認識

【Q28～Q31の“青少年”とは30歳未満を指します】

Q28. あなたは、青少年の薬物問題の現状についてどのように感じていますか。次の中から1つだけお選びください。

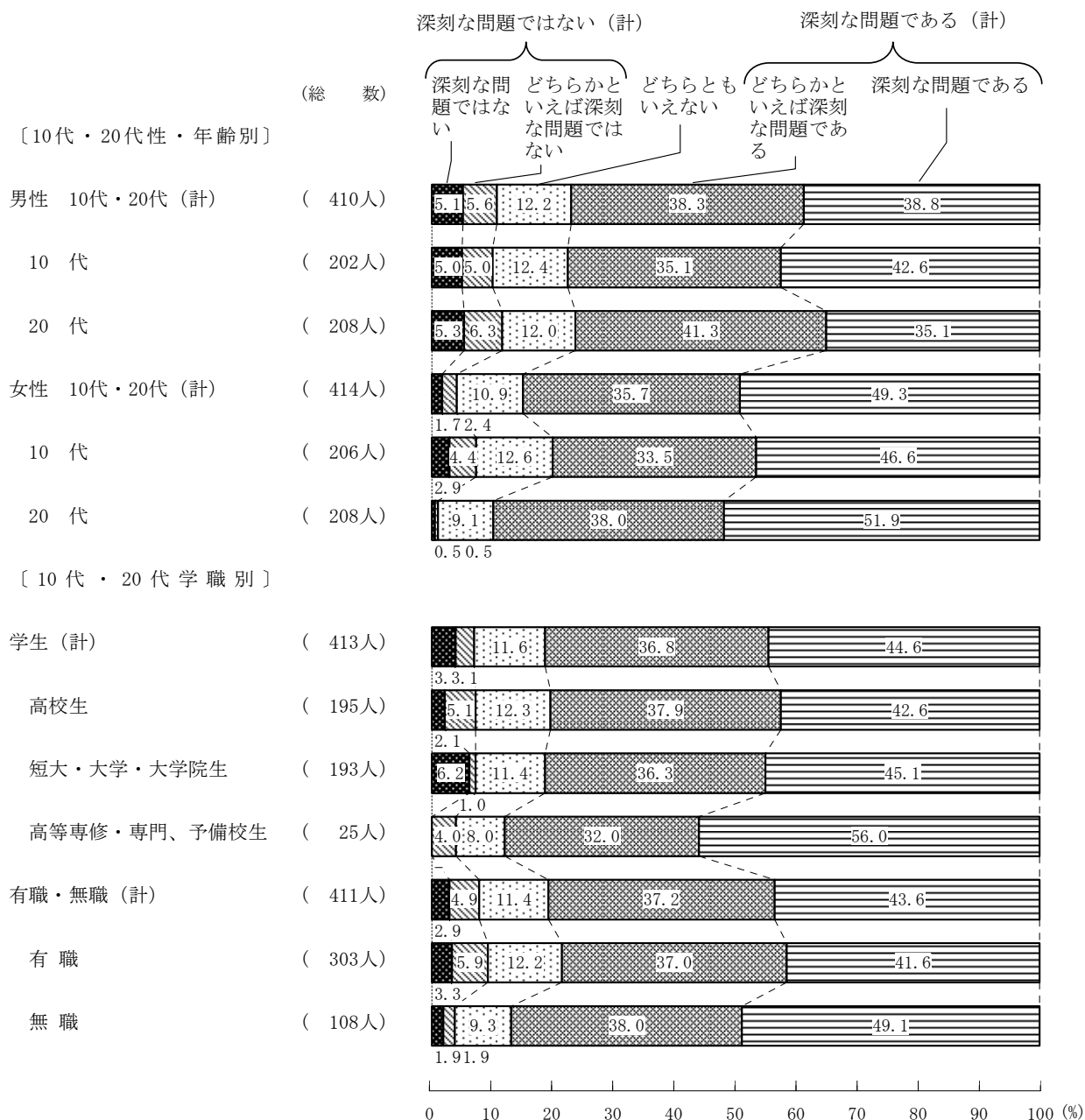


青少年の薬物問題の現状についてどのように感じるか聞いたところ、「深刻な問題ではない (計)」(「深刻な問題ではない」+「どちらかといえば深刻な問題ではない」)とする者の割合は10代(8.6%)、20代(6.3%)、30代以上(計)(3.9%)ともに1割未満であるが、「深刻な問題である (計)」(「どちらかといえば深刻な問題である」+「深刻な問題である」)とする者の割合は30代以上(計)(88.4%)では9割近くを占めるのに対し、10代(78.9%)では8割未満、20代(83.2%)では8割半ばとなっている。30代以上(計)では「深刻な問題である」(55.4%)と答えた者の割合も5割以上と高くなっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「深刻な問題である（計）」とする者の割合は男性（77.1%）より女性（85.0%）で高く、女性20代（89.9%）では約9割を占めている。また、「深刻な問題である」と答えた者の割合も男性（38.8%）より女性（49.3%）で高くなっており、約11ポイントの差がみられた。

10代・20代学職別にみると、「深刻な問題である（計）」とする者の割合は有職（78.5%）のみ8割未満で、高校生（80.5%）、短大・大学・大学院生（81.3%）は約8割、無職（87.0%）では9割近くとなっている。

図表 2-2-12-1 青少年の薬物問題に対する認識



(参考) 平成 18 年調査「薬物乱用対策に関する世論調査」

(%)

	該当者数	深刻な問題である (小計)	ア) 深刻な問題である	イ) どちらかといえば深刻な問題である	ウ) どちらともいえない	深刻な問題ではない (小計)	エ) どちらかといえば深刻な問題ではない	オ) 深刻な問題ではない	わからない
[年齢]									
15～19歳	124	87.9	65.3	22.6	8.1	2.4	-	2.4	1.6
20歳以上 (小計)	2499	91.6	72.7	18.9	3.6	0.8	0.5	0.3	4.0
20～29歳	254	91.7	66.9	24.8	4.7	0.8	0.4	0.4	2.8
30～39歳	383	93.7	73.1	20.6	4.2	0.5	0.3	0.3	1.6
40～49歳	406	94.1	75.6	18.5	2.7	1.0	0.7	0.2	2.2
50～59歳	496	95.2	75.6	19.6	2.2	0.6	0.2	0.4	2.0
60～69歳	531	92.1	74.8	17.3	3.4	0.9	0.4	0.6	3.6
70歳以上	429	82.8	67.4	15.4	4.9	1.2	1.2	-	11.2

(2) 青少年が薬物を乱用する原因や理由

Q29. 青少年が薬物を乱用する原因や理由はどこにあると思いますか。次の中からいくつでもお選びください。(複数選択可)

(%)

n		しやすくなっている	繁華街などで薬物が密売されるなど青少年でも薬物を手に入れている	インターネットや携帯電話による密売により青少年でも薬物を手に入れている	青少年の認識が不足している	薬物乱用の恐ろしさについて	インターネットなどで簡単に薬物に関する有害な情報を手に入れられる	インターネットなどで簡単に薬物に関する有害な情報を手に入れられる	青少年に薬物を与える大人がいる	出会い系サイトなどを通じて	青少年に薬物を与える大人が	仲間意識などから友人、先輩等の誘いを断れない	青少年に社会のルールを守るという意識が薄れている
[年 齢 別]													
10代・20代 (計)	(824人)	71.6	68.2	51.0	40.9	39.1	38.6	37.7					
10 代	(408人)	67.9	66.4	49.0	37.5	35.0	37.5	37.0					
20 代	(416人)	75.2	70.0	52.9	44.2	43.0	39.7	38.5					
30代以上 (計)	(825人)	80.5	80.0	67.4	55.2	46.8	39.5	53.6					
30 代	(207人)	74.4	82.6	62.3	49.8	45.4	37.7	45.9					
40 代	(208人)	85.6	82.7	62.0	54.3	49.5	41.3	55.3					
50 代	(206人)	77.7	75.2	71.8	60.2	46.6	40.3	56.8					
60代以上	(204人)	84.3	79.4	73.5	56.4	45.6	38.7	56.4					

n		社会全般が子どもの非行に無関心になっている	警察などによる青少年の薬物乱用に対する補導、取締りが不十分	家庭で薬物の恐ろしさを取り上げるなどの教育が不十分	学校での薬物乱用を防止するための教育が不十分	その他	わからない	回答計
[年 齢 別]								
10代・20代 (計)	(824人)	30.8	27.3	26.6	21.0	3.4	7.4	463.6
10 代	(408人)	30.6	27.2	25.2	15.9	2.0	9.6	440.9
20 代	(416人)	31.0	27.4	27.9	26.0	4.8	5.3	485.8
30代以上 (計)	(825人)	39.3	30.2	40.1	36.7	3.0	2.5	574.8
30 代	(207人)	35.3	27.5	32.4	30.4	6.3	1.9	531.9
40 代	(208人)	42.3	28.8	39.9	33.2	1.0	1.9	577.9
50 代	(206人)	41.3	32.5	41.7	38.8	3.4	3.4	589.8
60代以上	(204人)	38.2	31.9	46.6	44.6	1.5	2.9	600.0

青少年が薬物を乱用する原因や理由はどこにあると思うか聞いたところ、10代、20代、30代以上（計）ともに「繁華街などで薬物が密売されるなど青少年でも薬物を入手しやすくなっている」（10代 67.9%、20代 75.2%、30代以上（計） 80.5%）、「インターネットや携帯電話による密売により青少年でも薬物を入手しやすくなっている」（10代 66.4%、20代 70.0%、30代以上（計） 80.0%）、「薬物乱用の恐ろしさについて青少年の認識が不足している」（10代 49.0%、20代 52.9%、30代以上（計） 67.4%）が上位3項目で共通しているが、いずれも30代以上（計）で割合が高く、「繁華街などで薬物が密売されるなど青少年でも薬物を入手しやすくなっている」、「インターネットや携帯電話による密売により青少年でも薬物を入手しやすくなっている」を挙げた者の割合は30代以上（計）では8割となっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「繁華街などで薬物が密売されるなど青少年でも薬物を入手しやすくなっている」（男性67.1%、女性76.1%）、「インターネットや携帯電話による密売により青少年でも薬物を入手しやすくなっている」（男性64.9%、女性71.5%）、「薬物乱用の恐ろしさについて青少年の認識が不足している」（男性46.8%、女性55.1%）の上位3項目では、男性より女性で割合が高く、「繁華街などで薬物が密売されるなど青少年でも薬物を入手しやすくなっている」を挙げた者の割合は女性20代（81.3%）では8割以上となっている。また、「仲間意識などから友人、先輩等の誘いを断れない」を挙げた者の割合も男性（31.0%）より女性（46.1%）で高く、約15ポイントの差がみられ、女性20代（51.4%）では5割以上となっている。

10代・20代学職別にみると、「繁華街などで薬物が密売されるなど青少年でも薬物を入手しやすくなっている」を挙げた者の割合は、有職（74.9%）、無職（73.1%）で7割以上となっており、高校生（67.2%）、短大・大学・大学院生（69.9%）より割合が高い。

図表 2-2-12-2 青少年が薬物を乱用する原因や理由

		青少年が薬物を乱用する原因や理由 (%)								
n		て入青が繁すも売携インのいさ薬をを関ど人にと出い友仲いうい	手少密華くな薬に帯間認に物つ物手すでに薬を会い友間意識	年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や	るし年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や	るし年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や	るし年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や	るし年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や	るし年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や	るし年売街やでれでもれどで入青にネツやで密や
〔10代・20代性・年齢別〕										
男性 10代・20代（計）	(410人)	67.1	64.9	46.8	37.1	35.6	31.0	36.1		
10代	(202人)	64.9	66.3	45.5	35.6	32.7	34.2	35.1		
20代	(208人)	69.2	63.5	48.1	38.5	38.5	27.9	37.0		
女性 10代・20代（計）	(414人)	76.1	71.5	55.1	44.7	42.5	46.1	39.4		
10代	(206人)	70.9	66.5	52.4	39.3	37.4	40.8	38.8		
20代	(208人)	81.3	76.4	57.7	50.0	47.6	51.4	39.9		
〔10代・20代学職別〕										
学 生（計）	(413人)	68.8	66.1	50.8	40.0	36.8	39.2	36.1		
高校生	(195人)	67.2	64.1	47.7	35.9	36.4	36.4	36.4		
短大・大学・大学院生	(193人)	69.9	68.4	54.4	43.5	37.8	43.0	35.2		
高等専修・専門・予備校生	(25人)	72.0	64.0	48.0	44.0	32.0	32.0	40.0		
有職・無職（計）	(411人)	74.5	70.3	51.1	41.8	41.4	38.0	39.4		
有職	(303人)	74.9	69.0	49.2	41.3	41.9	34.3	39.3		
無職	(108人)	73.1	74.1	56.5	43.5	39.8	48.1	39.8		

n		な の社 会 全 行 に 関 心 も	り 対 少 警 が 年 祭 不 十 補 導 物 に 乱 取 用 縮 に 青	分 な し 家 ど さ 庭 の を で 教 育 取 物 が あ の 不 け 恐 十 る ろ	教 を 学 育 防 校 が 止 不 十 分 た 物 乱 の 用	そ の 他	わ か ら な い	回 答 計
〔10代・20代性・年齢別〕								
男性 10代・20代（計）	(410人)	30.0	28.0	27.3	21.0	3.7	7.3	435.9
10代	(202人)	30.7	29.7	29.2	17.3	2.0	8.4	431.7
20代	(208人)	29.3	26.4	25.5	24.5	5.3	6.3	439.9
女性 10代・20代（計）	(414人)	31.6	26.6	25.8	21.0	3.1	7.5	491.1
10代	(206人)	30.6	24.8	21.4	14.6	1.9	10.7	450.0
20代	(208人)	32.7	28.4	30.3	27.4	4.3	4.3	531.7
〔10代・20代学職別〕								
学 生（計）	(413人)	30.3	27.6	26.2	16.9	2.4	8.5	449.6
高校生	(195人)	34.4	25.6	27.7	15.9	1.5	9.7	439.0
短大・大学・大学院生	(193人)	24.9	31.1	24.9	18.1	2.6	7.3	461.1
高等専修・専門・予備校生	(25人)	40.0	16.0	24.0	16.0	8.0	8.0	444.0
有職・無職（計）	(411人)	31.4	27.0	27.0	25.1	4.4	6.3	477.6
有職	(303人)	31.0	24.4	24.8	24.1	4.3	6.6	465.0
無職	(108人)	32.4	34.3	33.3	27.8	4.6	5.6	513.0

(参考) 平成 18 年調査「薬物乱用対策に関する世論調査」

(%)

	該当者数	イ) インターネットでの密売で入手が容易*	ア) 繁華街で密売されるなど入手しやすい*	エ) 恐ろしさについて青少年の認識不足*	コ) 簡単に薬物に関する有害な情報入手*	ウ) 青少年に薬物を与える大人がいる*	オ) 社会ルールを守ろうという意識が薄い*	カ) 家庭で薬物に関する教育が不十分*
[年齢]								
15～19歳	124	63.7	73.4	45.2	37.9	29.0	29.8	16.1
20歳以上 (小計)	2499	72.4	68.8	53.9	47.7	43.8	40.7	33.0
20～29歳	254	76.4	70.1	56.7	62.2	43.7	38.6	25.2
30～39歳	383	80.4	81.2	63.2	56.9	45.2	42.0	31.9
40～49歳	406	84.2	80.8	63.5	61.6	57.9	51.7	40.1
50～59歳	496	78.8	72.4	54.8	48.8	48.4	43.8	34.3
60～69歳	531	70.2	64.8	49.9	41.4	42.7	38.2	33.0
70歳以上	429	46.9	46.6	38.7	24.0	25.2	29.6	30.5

	該当者数	サ) 仲間意識から友人等の誘いを断れない*	キ) 社会全般が子どもの非行に無関心*	ク) 学校での薬物乱用防止教育が不十分*	ケ) 薬物乱用に対する補導などが不十分*	その他	わからない	計 (M.T.)
[年齢]								
15～19歳	124	37.9	16.1	13.7	12.9	-	2.4	378.2
20歳以上 (小計)	2499	30.7	30.3	28.4	24.4	0.9	5.3	480.2
20～29歳	254	37.0	24.8	24.4	24.0	1.6	2.0	486.6
30～39歳	383	32.4	30.0	27.4	24.8	-	1.3	516.7
40～49歳	406	44.1	37.7	35.5	28.6	0.2	1.7	587.7
50～59歳	496	28.0	31.0	29.8	26.4	1.2	1.6	499.4
60～69歳	531	28.2	31.3	27.1	23.4	1.5	5.6	457.4
70歳以上	429	19.1	24.9	24.7	19.1	0.7	17.9	348.0

(3) 薬物を乱用した青少年の立ち直りに必要な支援

Q30. あなたは、薬物を乱用した青少年を立直らせるためには、誰の支援が重要だと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。(複数選択可)

												(%)
n		家族	友人	地域社会	医療機関	警察	学校	保健所などの行政機関	ボランティア、ボランティア	その他	わからない	回答計
〔年齢別〕												
10代・20代(計)	(824人)	78.4	57.9	48.7	44.5	36.8	36.0	31.4	25.7	1.3	6.3	367.1
10代	(408人)	77.2	58.6	46.8	43.4	37.0	36.3	32.6	23.5	1.5	7.6	364.5
20代	(416人)	79.6	57.2	50.5	45.7	36.5	35.8	30.3	27.9	1.2	5.0	369.7
30代以上(計)	(825人)	86.7	55.2	53.5	53.9	32.2	37.0	32.4	37.0	1.1	2.8	391.6
30代	(207人)	86.5	57.5	46.9	46.9	31.9	35.7	27.5	28.0	1.0	3.4	365.2
40代	(208人)	85.6	58.2	53.4	47.1	28.8	37.5	29.3	38.0	1.4	2.9	382.2
50代	(206人)	86.4	50.5	55.8	59.7	30.1	33.5	29.6	38.8	0.5	2.4	387.4
60代以上	(204人)	88.2	54.4	57.8	62.3	38.2	41.2	43.1	43.1	1.5	2.5	432.4

薬物を乱用した青少年を立直らせるためには、誰の支援が重要だと思うか聞いたところ、10代、20代、30代以上(計)ともに「家族」(10代77.2%、20代79.6%、30代以上(計)86.7%)、「友人」(10代58.6%、20代57.2%、30代以上(計)55.2%)が上位2項目で共通しているが、「家族」は30代以上(計)で割合が高く、8割以上となっている。

10代・20代性・年齢別にみると、すべての項目で男性より女性で割合が高くなっており、「家族」（男性72.7%、女性84.1%）、「地域社会」（男性43.4%、女性53.9%）、「医療機関」（男性39.0%、女性50.0%）ではいずれも約11ポイントの差がみられる。

10代・20代学職別にみると、いずれの層も「家族」（高校生79.0%、短大・大学・大学院生80.3%、有職77.2%、無職78.7%）を挙げた者の割合が最も高く、8割前後となっている。次いで、高校生、短大・大学・大学院生、有職では「友人」（高校生59.0%、短大・大学・大学院生63.2%、有職55.8%）が挙げられたのに対し、無職では「地域社会」（63.0%）が挙げられ、6割以上となっている。「友人」を挙げた者の割合は短大・大学・大学院生で高く、6割以上となっている。

図表 2-2-12-3 薬物を乱用した青少年の立ち直りに必要な支援

		(%)											
n		家族	友人	地域社会	医療機関	警察	学校	保健所などの行政機関	ボランティア、ボランティア	その他	わからない	回答計	
〔10代・20代性・年齢別〕													
男性	10代・20代（計）	(410人)	72.7	53.9	43.4	39.0	35.1	34.4	26.6	23.2	1.2	8.3	337.8
	10代	(202人)	70.8	55.4	45.0	40.6	36.1	35.1	30.2	22.3	2.0	9.9	347.5
	20代	(208人)	74.5	52.4	41.8	37.5	34.1	33.7	23.1	24.0	0.5	6.7	328.4
女性	10代・20代（計）	(414人)	84.1	61.8	53.9	50.0	38.4	37.7	36.2	28.3	1.4	4.3	396.1
	10代	(206人)	83.5	61.7	48.5	46.1	37.9	37.4	35.0	24.8	1.0	5.3	381.1
	20代	(208人)	84.6	62.0	59.1	53.8	38.9	38.0	37.5	31.7	1.9	3.4	411.1
〔10代・20代学職別〕													
学 生	（ 計 ）	(413人)	79.2	61.0	45.3	46.2	38.5	40.2	34.4	24.2	1.7	5.8	376.5
	高校生	(195人)	79.0	59.0	46.7	44.6	36.4	37.9	37.4	24.1	0.5	4.6	370.3
	短大・大学・大学院生	(193人)	80.3	63.2	45.6	47.2	41.5	41.5	33.7	25.4	2.6	6.2	387.0
	高等専修・専門、予備校生	(25人)	72.0	60.0	32.0	52.0	32.0	48.0	16.0	16.0	4.0	12.0	344.0
有 職 ・ 無 職	（ 計 ）	(411人)	77.6	54.7	52.1	42.8	35.0	31.9	28.5	27.3	1.0	6.8	357.7
	有職	(303人)	77.2	55.8	48.2	41.9	35.3	30.7	28.1	26.7	0.3	5.6	349.8
	無職	(108人)	78.7	51.9	63.0	45.4	34.3	35.2	29.6	28.7	2.8	10.2	379.6

(参考) 平成 18 年調査「薬物乱用対策に関する世論調査」

(%)

	該当者数	ア) 家族	イ) 友人	ウ) 地域 社会	キ) 医療 機関	エ) 学校	オ) 警察
[年齢]							
15～19歳	124	80.6	64.5	27.4	47.6	34.7	31.5
20歳以上 (小計)	2499	84.1	50.5	50.9	48.0	37.0	36.8
20～29歳	254	83.9	68.5	40.9	53.1	33.1	30.7
30～39歳	383	90.3	59.5	53.0	50.7	35.0	25.3
40～49歳	406	91.4	60.8	53.4	58.9	42.1	36.5
50～59歳	496	86.9	49.2	56.0	53.0	36.1	38.1
60～69歳	531	77.2	42.2	51.8	43.5	36.3	42.4
70歳以上	429	77.2	33.6	45.7	31.9	38.2	42.4

	該当者数	カ) 保健 所などの 行政機関	ク) ボラ ンティア	その他	わからな い	計 (M. T.)
[年齢]						
15～19歳	124	30.6	16.9	0.8	-	334.7
20歳以上 (小計)	2499	33.1	22.8	0.4	2.9	366.5
20～29歳	254	34.3	22.8	-	1.6	368.9
30～39歳	383	26.4	26.4	0.5	0.5	367.6
40～49歳	406	37.9	30.5	0.2	1.2	413.1
50～59歳	496	37.1	24.0	0.6	1.8	382.9
60～69歳	531	33.5	19.4	0.4	4.0	350.7
70歳以上	429	28.9	14.9	0.5	7.2	320.5

(4) 青少年を薬物から守る対策

Q31. あなたは、青少年を薬物から守る対策として、どのようなことが有効だと思いますか。次の中から特に有効なものを5つまでお選びください。(5つまで選択可)

(%)

n		暴力団や不良外国人などの密売人の取締りを強化する	学校での薬物乱用防止教育を強化する	インターネットや携帯電話を利用した密売の取締りを強化する	家庭で薬物の恐ろしさを取りあげる	薬物乱用に対する罰則を強化する	薬物を乱用している青少年の補導、取締りを強化する	家庭、学校、地域や関係機関などの連携を強化する	薬物乱用に関する相談のための機関、施設を充実する	出会い系サイトなど青少年の身近に薬物をもたらす有害環境を浄化する
[年齢別]										
10代・20代 (計)	(824人)	52.7	47.6	44.4	35.3	35.3	33.0	31.9	24.9	15.2
10代	(408人)	54.2	47.8	46.3	33.3	34.3	33.6	31.6	24.8	14.2
20代	(416人)	51.2	47.4	42.5	37.3	36.3	32.5	32.2	25.0	16.1
30代以上 (計)	(825人)	63.8	52.6	49.5	45.9	44.5	31.3	34.2	22.8	18.9
30代	(207人)	58.5	48.8	54.1	47.3	43.0	30.9	26.1	19.3	17.4
40代	(208人)	58.2	51.0	51.4	47.1	43.3	31.7	35.1	23.6	16.8
50代	(206人)	68.9	51.0	47.1	43.2	48.1	29.1	35.0	29.1	18.9
60代以上	(204人)	69.6	59.8	45.1	46.1	43.6	33.3	40.7	19.1	22.5

n		各種メディアが、いたずらに青少年が薬物に興味をもつこととなるような記事掲載や番組作成に注意する	各種メディアが報道の際、薬物の弊害について取りあげる	インターネットなどに有害な薬物情報をつけないようにする	薬物の乱用した青少年に対する再乱用の防止対策を充実する	薬物乱用防止に関する広報啓発活動を充実する	青少年の健全育成のためにスポーツ、ボランティア活動などを充実させる	その他	わからない	回答計
[年齢別]										
10代・20代 (計)	(824人)	14.4	13.8	13.7	6.3	5.7	4.9	0.4	7.3	386.8
10代	(408人)	13.7	10.3	14.7	5.9	6.1	5.1	0.5	7.6	384.1
20代	(416人)	15.1	17.3	12.7	6.7	5.3	4.6	0.2	7.0	389.4
30代以上 (計)	(825人)	16.6	16.6	21.0	6.2	6.4	3.5	0.7	2.5	437.0
30代	(207人)	14.5	17.4	17.4	7.2	4.3	1.9	1.9	3.9	414.0
40代	(208人)	17.3	14.9	17.3	4.3	7.2	3.4	-	1.4	424.0
50代	(206人)	18.4	15.0	23.8	7.8	6.3	3.4	0.5	2.4	448.1
60代以上	(204人)	16.2	19.1	25.5	5.4	7.8	5.4	0.5	2.5	462.3

青少年を薬物から守る対策として、どのようなことが有効だと思うか聞いたところ、10代、20代、30代以上（計）ともに「暴力団や不良外国人などの密売人の取締りを強化する」（10代 54.2%、20代 51.2%、30代以上（計） 63.8%）、「学校での薬物乱用防止教育を強化する」（10代 47.8%、20代 47.4%、30代以上（計） 52.6%）、「インターネットや携帯電話を利用した密売の取締りを強化する」（10代 46.3%、20代 42.5%、30代以上（計） 49.5%）が上位3項目で共通しているが、いずれの項目も10代、20代の若年層より30代以上（計）で割合が高くなっており、「暴力団や不良外国人などの密売人の取締りを強化する」を挙げた者の割合は30代以上（計）では6割以上となっている。

10代・20代性・年齢別にみると、「インターネットや携帯電話を利用した密売の取締りを強化する」を挙げた者の割合は男性（38.8%）より女性（50.0%）で高く、女性では5割となっている。

10代・20代学職別にみると、「暴力団や不良外国人などの密売人の取締りを強化する」を挙げた者の割合は高校生（57.4%）で高く、6割近くとなっている。また、「学校での薬物乱用防止教育を強化する」、「インターネットや携帯電話を利用した密売の取締りを強化する」を挙げた者の割合は無職（51.9%、52.8%）で高く、5割以上となっている。

図表 2-2-12-4 青少年を薬物から守る対策

		（%）									
n		暴力団や不良外国人などの密売人の取締りを強化する	学校での薬物乱用防止教育を強化する	インターネットや携帯電話の取締りを強化する	家庭で薬物の恐ろしさを取りあげる	薬物乱用に対する罰則を強化する	薬物乱用している青少年の取締りを強化する	家庭、学校、地域や関係機関などの連携を強化する	薬物乱用に関する相談のたのめ機関に施設を充実する	出会い系サイトなど青少年の身近な環境を浄化する	
〔10代・20代性・年齢別〕											
男性 10代・20代（計）	（ 410人）	54.9	45.6	38.8	36.6	33.2	32.0	31.0	21.0	13.7	
10代	（ 202人）	55.9	48.0	41.6	35.6	31.2	31.2	30.7	18.8	15.8	
20代	（ 208人）	53.8	43.3	36.1	37.5	35.1	32.7	31.3	23.1	11.5	
女性 10代・20代（計）	（ 414人）	50.5	49.5	50.0	34.1	37.4	34.1	32.9	28.7	16.7	
10代	（ 206人）	52.4	47.6	51.0	31.1	37.4	35.9	32.5	30.6	12.6	
20代	（ 208人）	48.6	51.4	49.0	37.0	37.5	32.2	33.2	26.9	20.7	
〔10代・20代学職別〕											
学 生 （ 計 ）	（ 413人）	53.5	47.7	45.5	34.1	34.9	35.1	33.2	27.4	15.3	
高校生	（ 195人）	57.4	46.7	45.1	36.4	34.4	37.4	32.8	26.7	15.4	
短大・大学・大学院生	（ 193人）	51.3	48.7	45.1	32.1	35.2	34.2	33.7	28.0	15.0	
高等専修・専門・予備校生	（ 25人）	40.0	48.0	52.0	32.0	36.0	24.0	32.0	28.0	16.0	
有 職 ・ 無 職 （ 計 ）	（ 411人）	51.8	47.4	43.3	36.5	35.8	30.9	30.7	22.4	15.1	
有職	（ 303人）	51.8	45.9	39.9	35.6	36.0	31.0	29.7	21.8	15.8	
無職	（ 108人）	51.9	51.9	52.8	38.9	35.2	30.6	33.3	24.1	13.0	

n		載つて各種の青少年が、興味をもち、注意する	各種のメディアが、報道の際、あげられる	インターネットの情報などを有する	薬物の乱用防止青少年に充	啓発活動を実施する	青少年の健全育成のため	その他	わからない	回答計
〔10代・20代性・年齢別〕										
男性 10代・20代（計）	（ 410人）	11.5	13.4	14.4	3.9	5.1	5.6	0.2	8.0	368.8
10代	（ 202人）	11.4	9.9	16.3	4.0	5.9	6.9	0.5	6.9	370.8
20代	（ 208人）	11.5	16.8	12.5	3.8	4.3	4.3	-	9.1	366.8
女性 10代・20代（計）	（ 414人）	17.4	14.3	13.0	8.7	6.3	4.1	0.5	6.5	404.6
10代	（ 206人）	16.0	10.7	13.1	7.8	6.3	3.4	0.5	8.3	397.1
20代	（ 208人）	18.8	17.8	13.0	9.6	6.3	4.8	0.5	4.8	412.0
〔10代・20代学職別〕										
学 生 （ 計 ）	（ 413人）	13.1	12.1	15.3	5.6	6.8	5.1	0.5	6.5	391.5
高校生	（ 195人）	12.3	9.7	16.4	4.6	5.6	5.6	1.0	5.6	393.3
短大・大学・大学院生	（ 193人）	13.0	13.5	15.5	6.7	7.3	4.1	-	7.3	390.7
高等専修・専門・予備校生	（ 25人）	20.0	20.0	4.0	4.0	12.0	8.0	-	8.0	384.0
有 職 ・ 無 職 （ 計 ）	（ 411人）	15.8	15.6	12.2	7.1	4.6	4.6	0.2	8.0	382.0
有職	（ 303人）	15.5	14.9	13.2	6.9	3.6	4.3	-	8.9	374.9
無職	（ 108人）	16.7	17.6	9.3	7.4	7.4	5.6	0.9	5.6	401.9

(参考) 平成 18 年調査「薬物乱用対策に関する世論調査」

(%)

	該当者数	イ) 学校での薬物乱用防止教育を強化する	カ) 暴力団などの密売人の取締りを強化*	キ) ネット等利用の密売の取締りを強化*	ア) 家庭で薬物の恐ろしさを取りあげる	エ) 家庭, 学校や関係機関の連携を強化*	サ) ネットなどに有害薬物情報をのせない*	オ) 乱用している青少年の補導等を強化*	コ) 身近に薬物をもたらす有害環境を浄化*
[年齢]									
15～19歳	124	60.5	60.5	52.4	31.5	42.7	42.7	46.0	28.2
20歳以上 (小計)	2499	62.9	60.3	59.6	56.9	49.1	46.1	44.3	36.6
20～29歳	254	60.6	68.1	68.9	42.1	42.9	48.8	49.6	39.8
30～39歳	383	63.4	64.5	69.7	59.8	50.9	54.3	48.0	40.2
40～49歳	406	71.7	68.5	75.1	62.3	56.2	62.3	48.3	55.7
50～59歳	496	65.7	60.1	64.5	61.5	51.4	50.2	48.2	40.1
60～69歳	531	61.4	57.3	53.5	57.4	49.7	40.9	40.3	31.6
70歳以上	429	54.1	48.3	32.4	51.7	41.3	23.8	34.3	15.4

	該当者数	ウ) 乱用に関する相談のための機関を充実*	シ) 青少年に対する再乱用の防止対策充実*	ク) 薬物乱用防止の広報啓発活動を充実*	ケ) 健全育成のためにスポーツ等を充実*	その他	わからない	計 (M. T.)
[年齢]								
15～19歳	124	29.8	29.8	16.9	16.9	0.8	2.4	461.3
20歳以上 (小計)	2499	34.2	31.0	25.4	21.8	0.8	3.6	532.6
20～29歳	254	37.8	34.3	18.5	18.1	0.4	2.0	531.9
30～39歳	383	34.7	30.0	24.3	17.5	0.8	0.8	559.0
40～49歳	406	46.6	41.6	33.3	26.6	0.7	0.2	649.0
50～59歳	496	36.9	35.1	30.6	24.8	1.0	1.6	571.8
60～69歳	531	32.0	27.7	23.2	24.1	0.9	3.6	503.6
70歳以上	429	19.6	19.1	19.6	17.2	0.5	12.6	389.7

13. 自尊心尺度質問 (F8) との検定結果

F8の自尊意識に関するア～コの10の質問(自尊心尺度質問)について、回答者のそれぞれの回答を以下の表の得点配分に従って総得点を算出したうえで、次ページ以下の8つの質問で回答者を2つの層に分け、それぞれの層のF8の総得点の平均点を算出し、2つの層に有意な差があるか検定(t検定)を行なった。

図表 2-2-13-1 自尊心尺度質問 点数化表

		あてはまらない	あてはまらない やや	どちらとも いえない	あてはまる やや	あてはまる
	あなたに ^あ あてはまるものを「あてはまらない」「ややあてはまらない」「どちらともいえない」「ややあてはまる」「あてはまる」から <u>1</u> つだけ ^{えら} 選んで「○」をつけてください。					
ア	^{すく} 少なくとも ^{ひと} 人並みには、 ^か 価値のある ^{にんげん} 人間である。	1	2	3	4	5
イ	^{いろ} 色々な ^よ 良い ^{そしつ} 素質をもっている。	1	2	3	4	5
ウ	^{はい} 敗北者 ^{おも} だと思ふことがよくある。	5	4	3	2	1
エ	^{もの} 物事を ^{ひと} 人並みには、うまくやれる。	1	2	3	4	5
オ	^{じぶん} 自分には、 ^{じまん} 自慢できるところがあまりない。	5	4	3	2	1
カ	^{じぶん} 自分に対して ^{たい} 肯定的 ^{こうていでき} である。	1	2	3	4	5
キ	だいたいにおいて、 ^{じぶん} 自分に ^{まんぞく} 満足している	1	2	3	4	5
ク	もっと ^{じぶん} 自分 ^{じしん} 自身を ^{そんけい} 尊敬できるようにになりたい。	5	4	3	2	1
ケ	^{じぶん} 自分は ^{まった} 全く ^{にんげん} だめな人間 ^{おも} だと思ふことがある。	5	4	3	2	1
コ	^{なに} 何かにつけて、 ^{じぶん} 自分は ^{やく} 役に ^た 立たない人間 ^{にんげん} だ ^{おも} と思ふ。	5	4	3	2	1

* 出典：山本真理子，松井豊，山成由紀子

認知された自己の諸側面の構造. 教育心理学研究 30: 64-68, 1982.

(原語版の原典: Rosenberg M: Society and the adolescent self-image. Prinston Univ. Press, 1965)

* 網掛けをした質問は逆転項目

以下、それぞれの結果を下記に示すが、表中の「2つの母平均の差の検定」の「有意確率（両側）」の値が5%未満となった Q13、Q15、Q21、Q23 の4質問で統計的に有意という検定結果が導きだされた。

(1) Q1 薬物問題に対する関心

「関心がある」層と「関心がない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	.775	.379	-0.051	822	.959	-.03	.558	-1.124	1.067
等分散を仮定する。 等分散を仮定しない。			-0.052	567.938	.959	-.03	.551	-1.111	1.053

(2) Q7 覚せい剤に対する認識

「恐ろしいものだと思う」層と「恐ろしいものだとは思わない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	2.732	.099	-0.316	774	.752	-.68	2.147	-4.892	3.536
等分散を仮定する。 等分散を仮定しない。			-0.218	12.190	.831	-.68	3.110	-7.442	6.086

(3) Q9 大麻（大麻樹脂、乾燥大麻）に対する認識

「恐ろしいものだと思う」層と「恐ろしいものだとは思わない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	2.382	.123	1.021	734	.308	1.38	1.355	-1.277	4.044
等分散を仮定する。 等分散を仮定しない。			.870	35.281	.390	1.38	1.591	-1.845	4.612

(4) Q11 MDMAに対する認識

「恐ろしいものだと思う」層と「恐ろしいものだとは思わない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	.026	.871	1.084	641	.279	1.90	1.752	-1.541	5.340
等分散を仮定する。 等分散を仮定しない。			1.061	19.062	.302	1.90	1.790	-1.846	5.645

(5) Q13 薬物乱用に対する認識

「どのような薬物であろうと、どのような理由であろうと絶対にいけない」層と、

「一回くらいであれば体に害はなさそうなので、いいのではないか」及び「他人に迷惑をかけなければ個人の自由である」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
SUM	.052	.820	2.918	822	.004	2.51	.861	.822	4.201
	等分散を仮定する。		2.945	104.772	.004	2.51	.853	.821	4.203
	等分散を仮定しない。								

(6) Q15 薬物を使ってみたいと思ったこと

「ある」層と「ない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	15.255	.000	-3.529	822	.000	-3.69	1.046	-5.747	-1.639
	等分散を仮定する。		-2.722	58.302	.009	-3.69	1.357	-6.409	-1.977
	等分散を仮定しない。								

(7) Q21 学校での薬物乱用防止教育の影響

「影響を受けている」層と「影響を受けていない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	2.042	.154	2.531	630	.012	1.96	.774	.439	3.477
	等分散を仮定する。		2.346	149.342	.020	1.96	.834	.309	3.607
	等分散を仮定しない。								

(8) Q23 学校以外での薬物乱用防止教育・啓発の影響

「影響を受けている」層と「影響を受けていない」層

独立サンプルの検定

	等分散性のための Levene の検定		2つの母平均の差の検定						
	F 値	有意確率	t 値	自由度	有意確率 (両側)	平均値の差	差の標準誤差	差の 95% 信頼区間	
								下限	上限
F8. 総得点	.114	.736	3.511	456	.000	3.24	.921	1.425	5.046
	等分散を仮定する。		3.434	114.318	.001	3.24	.942	1.369	5.102
	等分散を仮定しない。								